九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第6巻 : 部局史編 III

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1801801

出版情報：九州大学百年史. 6, 2017-03-31. Kyushu University
バージョン：
権利関係：

第 21 編

高 等 研 究 院

第 1 章　高等研究院の創設

高等研究院は、ノーベル賞級のきわめて高い研究業績を有する研究者や次世代を担う優れた若手研究者が高度な研究活動を行う場として、部局を超えた全学的な組織として 2009（平成 21）年 10 月に設置された。高等研究院の主な使命は、高度な研究活動を展開するとともに、次世代を担う若手研究者を育成し、卓越した研究成果を学内外へ発信するといった研究支援活動を行うことである。

高等研究院には、高等研究院長をはじめとし、特別主幹教授、栄誉教授、特別顧問ならびに特別准教授（九州大学次世代研究スーパースター養成プログラムによる研究プロジェクトに従事する者）およびテニュアトラック制教員（九州大学テニュアトラック制による若手研究者育成計画に基づく教育研究に従事する者）により構成されている。また、高等研究院の運営等の重要事項を審議するために、高等研究院運営会議を設置している。

第 2 章　高等研究院の組織・運営

第 1 節　組　織

（1）高等研究院長

高等研究院長は、栄誉教授、特別主幹教授および九州大学の教授のうちから、総長が指名する者をもって充てられる。歴代の高等研究院長は、次のとおりである。

初　代　香月　勗（つとむ）（2009 年 10 月～2010 年 3 月）
第 2 代　巌佐　庸（よう）（2010 年 4 月～ ）

（2）特別主幹教授

特別主幹教授は、九州大学が誇る世界をリードする研究業績を挙げた国際的に活躍している方を招聘し、高度な研究活動を推進していくとともに、その豊富な研究経験を伝授し、自立性を備えた俯瞰的な視野を持つリーダーへと若手研究者を育成する。

新海征治　特別主幹教授

分子認識化学ならびに集積機能化学の教育に努め、また一貫して先駆的かつ独創的なアプローチによってこれらの研究分野の新領域を開拓し、顕著な業績を挙げるとともに、超分子科学の発展に尽力し、多くの貢献を成した。特に光により駆動する分子機械の創製や、外部刺激に応答し機能する数々の分子の開発は、日本が世界に誇る成果であり、国内外で高く評価され、日本

化学会進歩賞、高分子学会賞、Izatt-Christensen 国際賞、Backer Lecture 賞などを受賞し、2004（平成 16）年には紫綬褒章を受章している。また、2000 年には米国 ISI-Thomson Scientific 社が発表している化学分野における「論文被引用度・世界トップ 100 人（1990～2000）」に選ばれている。

以上のように国際的に顕著な業績を有することから、2009 年 10 月から特別主幹教授に就任し、グローバル COE プログラム「未来分子システム科学」における各種教育プログラムへ参画し、研究推進・活性化のための指導・助言を行った。

笹月健彦　特別主幹教授

人類遺伝学および免疫学の教育に尽くし、免疫遺伝学、分子生物学、臨床医学研究など、基礎医学から臨床医学まで「HLA による免疫応答の制御と免疫関連疾病の制御」に関する研究を展開し、世界トップレベルで活躍してきた。文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究「HLA 進化と疾病」の領域代表者として、100 年前に九州大学で発見された橋本病をはじめ、自己免疫疾患を中心とした HLA 研究をリードしている。これまでに、日本人類遺伝学会賞、日本医師会医学賞、武田医学賞、パリ市功労賞、米国 Rose Payne Distinguished Scientist 賞などを受賞し、2002（平成 14）年には紫綬褒章を受章している。

以上のように国際的に顕著な業績を有することから、2009 年 10 月から特別主幹教授に就任し、先端技術を駆使した HLA 多型と疾患の研究を推進し、同分野の発展に資するための指導・助言などを行った。

香月勗　特別主幹教授

有機合成化学分野における教育・研究での功績、特に、過酸化水素を酸化剤とする高立体選択的オレフィンの触媒的不斉エポキシ化、さらには大気中酸素を用いて酵素により触媒される生体内酸化と同様の機構で不斉エポキシ

化を世界で初めて実現するなど、光学活性遷移金属錯体を用いた環境調和型不斉酸化反応に関する研究の第一人者として、日本のみならず世界的にこの分野の発展に多大な貢献があった。これまでに日本化学会賞、有機合成化学協会高砂香料国際賞「野依賞」、文部科学大臣表彰などを受賞している。

以上のように国際的に顕著な業績や、高等研究院長として本学の発展に寄与していることから、2010（平成 22）年 4 月から特別主幹教授に就任し、光学活性遷移金属錯体を用いた触媒的不斉酸化反応の研究を推進し、同分野の発展に資するための指導・助言などを行った。

（3）栄誉教授

ノーベル賞等を受賞した者で、九州大学の研究・教育活動へ多大なる貢献を行った者に対して栄誉教授の称号を授与し、若手研究者および大学院生の育成やアカデミアの構築等について、助言・提言を行う。

バリー・シャープレス　栄誉教授

シャープレス博士は、1963（昭和 38）年にダートマス大学で学士号を取得し、1968 年にスタンフォード大学博士号取得、同年に同大学博士研究員、1969 年にハーバード大学博士研究員を経た後、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学、スクリプス研究所の教授として活躍している。2001（平成 13）年には「触媒的不斉酸化反応の開発」の業績により、ノーベル化学賞を受賞している。

学術文化の発展に世界的な貢献をするとともに、九州大学の教育研究活動の発展に多大な寄与および教育研究上顕著な功績があったことから、2010 年 5 月に栄誉教授の称号を付与した。

ムハマド・ユヌス　栄誉教授

ユヌス博士は、1970（昭和 45）年に米国バンダビルト大学で経済学博士号を取得し、1972 年にチッタゴン大学経済学部の学部長として招聘され、バングラデシュへ帰国し、周囲の貧困者に対し小口の融資を行った。これが 1976 年のグラミン銀行プロジェクトの先駆けとなり、このプロジェクトの成功により 1983 年にグラミン銀行を設立した。2006（平成 18）年に経済と社会の発展に貢献したとしてノーベル平和賞を受賞している。

世界の貧困根絶のために貢献をするとともに、九州大学のソーシャル・ビジネスにおける教育研究活動の発展に多大な寄与および教育研究上顕著な功績があったことから、2010 年 7 月に栄誉教授の称号を付与した。

（4）特別顧問

特別顧問は、学内外の優れた研究者等のうちから、総長が指名または委嘱し、高等研究院における研究活動に関し専門的な見地から助言を行うとともに、必要に応じてその業務に関連する会議等に参画する。

2010（平成 22）年 7 月に特別顧問として、中村元臣・九州大学名誉教授、和田光史（こうじ）・九州大学名誉教授（第 19 代九州大学総長）、関口睦夫・福岡歯科大学先端科学研究センター長、兼松顯・名城大学名誉教授、岩永貞昭・一般財団法人化学及血清療法研究所顧問、中野三敏・九州大学名誉教授、國武豊喜・北九州産業学術推進機構理事長の 7 名を委嘱した。

（5）テニュアトラック制教員等

高等研究院特別准教授

2006（平成 18）年度文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進事業」の採択を受け、テニュアトラック制（若手研究者

が厳正な審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付の雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組みをいう）を前提とした若手研究者の育成を図るとともに、部局の組織改革と新研究領域の開拓を推進する「次世代研究スーパースター養成プログラム（SSP)」を実施した。

SSP により雇用された学術研究員は、高等研究院特別准教授として高等研究院に所属し、研究スペース・設備・研究費等の研究環境の提供、給与面での相応の待遇の保障、養成期間終了後のテニュア・ポストの確保などの支援を受け、自立して独創的な研究を行うことができる。

国際公募により国内外から 24 名の特別准教授を採用し、養成期間終了時にテニュア審査を受け、論文発表、各賞受賞、研究費獲得の状況等いずれも優れた 15 名の者が九州大学の准教授として採用された。

テニュアトラック制教員

テニュアトラック制を普及・定着させることにより、優れた研究者の育成に寄与し、もって九州大学の研究活動の活性化を図ることを目的として、SSP を基盤に、研究分野ごとの特性に配慮して、職位や支援する研究費を柔軟に対応させる「九州大学テニュアトラック制」を 2011（平成 23）年度から開始した。また、2012 年度文部科学省「テニュアトラック普及・定着事業」に採択された。九州大学テニュアトラック制により、2011 年度は 5 名を採用し、高等研究院に所属して、特別主幹教授等の薫陶を受け、自立的な研究環境のもと研鑽を積んでいる。

第 2 節　運　営

(1) ノーベル賞受賞者によるセミナー・シンポジウム等

バリー・シャープレス　栄誉教授

2010（平成 22）年 5 月 21 日に九州大学稲盛財団記念館大ホール（福岡市西区）において、高等研究院の主催、グローバル COE プログラム「新炭素資源学」および「未来分子システム科学」の共催、九州大学創立 80 周年記念事業の後援により、バリー・シャープレス栄誉教授による特別講演会を開催した。特別講演会では、巌佐庸（よう）高等研究院長より挨拶があり、つづいて、シャープレス栄誉教授が「New Reactivity of Azides」と題した特別講演を行った。

ムハマド・ユヌス　栄誉教授

2010（平成 22）年 7 月 16 日にエルガーラ大ホール（福岡市中央区）において、九州大学、九州・アジア経営塾、福岡市および西日本新聞社の共催により、ムハマド・ユヌス栄誉教授によるシンポジウムを開催した。翌日の 7 月 17 日には、九州大学旧工学部本館大講義室（福岡市東区）において、全教研の主催、九州大学の共催によるワーキングセッションを開催した。ワーキングセッションでは、ユヌス栄誉教授が「未来のために、志を育てたい」と題した基調講演を行った。

鈴木章　名誉教授

2011（平成 23）年 7 月 17 日に京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール（京都市左京区）において、社団法人学士会の主催、京都大学、九州大学、大阪大学および名古屋大学の共催により、鈴木章北海道大学名誉教授によるノーベル化学賞受賞記念講演会を開催した。講演会では、梶山千里社団

法人学士会理事（第 21 代九州大学総長）より挨拶があり、鈴木名誉教授が「ノーベル化学賞を受賞して」と題した講演を行った。また、2012 年 2 月 23 日に福岡国際ホール大ホール（福岡市中央区）において、福岡女子大学、九州大学および西日本新聞社の主催、九州産業大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡工業大学、福岡歯科大学および福岡大学の共催、福岡県、福岡市および福岡県教育委員会の後援によるノーベル化学賞受賞記念講演会を開催した。講演会では、梶山千里福岡女子大学学長より挨拶があり、続いて、鈴木名誉教授が「ノーベル化学賞を受賞して～未来を開く化学～」と題して講演を行った。

根岸英一　特別教授

2012（平成 24）年 2 月 16 日に九州大学稲盛財団記念館大ホール（福岡市西区）において、高等研究院の主催、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所の共催により、根岸英一パデュー大学特別教授によるフォーラムを開催した。フォーラムでは、有川節夫九州大学総長および巌佐庸高等研究院長より挨拶があり、根岸特別教授が「Pd-Catalyzed Cross-coupling and Zr-catalyzed Asymmetric Carboalumination of Alkenes」と題した講演を行った。

（2）高等研究院の活動実績

1）2009（平成 21）年 12 年 9 日に九州大学旧工学部本館（福岡市東区）において、高等研究院の開院式を開催した。開院式では、有川節夫九州大学総長および香月昻（つとむ）高等研究院長より挨拶があり、つづいて、オープニングレクチャーとして、新海征治特別主幹教授および笹月健彦特別主幹教授が講演を行った。また、開院式に先立ち、旧工学部本館 1 階に設置された高等研究院長室において、銘板の除幕が行われた。

2）2010 年 1 月 18 日に九州大学医学部百年講堂（福岡市東区）において、香月勗高等研究院長、新海征治特別主幹教授、笹月健彦特別主幹教授、赤司浩一主幹教授、杉原知道特別准教授、鈴木淳史特別准教授、岡田誠司特別准教授および水野大介特別准教授による高等研究院設立座談会を開催した。

3）2010 年 2 月 17 日に九州大学稲盛財団記念館稲盛ホール（福岡市西区）において、高等研究院特別准教授の研究成果について、高等研究院の主催による公開シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、23 名の特別准教授が研究成果を発表した。

4）2010 年 3 月 17 日に九州大学医学部百年講堂中ホール（福岡市東区）において、高等研究院の主催によるセミナーを開催した。セミナーでは、香月勗特別主幹教授および村上敬宜（ゆきたか）理事・副学長より挨拶があり、つづいて、倉地幸徳（独）産業技術総合研究所年齢軸生命工学研究センター長が「研究と研究人生」と題した特別講演を行った。

5）若手研究者の成長とプレゼン能力を高めるために、高等研究院および九州先端科学技術研究所の若手研究者による研究交流会を定期的に開催している。2010 年 12 月 22 日に九州先端科学技術研究所（福岡市早良区）において、第 1 回目の交流会を開催した。交流会では、新海征司九州先端科学技術研究所長より挨拶があり、九州大学の稲永俊介特別准教授および藤ヶ谷剛彦特別准教授を含む 10 名が研究発表を行った。2011 年 12 月 20 日に九州先端科学技術研究所（福岡市早良区）において、第 2 回目の交流会を開催した。交流会では、新海征司九州先端科学技術研究所長により挨拶があり、九州大学のモロゾフ・キリル（Morozov Kirill）マス・フォア・インダストリ研究所助教、田原健二特別准教授および石谷太特別准教授を含む 6 名が研究発表を行った。

6）2011 年 2 月 24 日にアクロス福岡国際会議場（福岡市中央区）において、「次世代研究スーパースター養成プログラム（SSP）」の 5 年間の成果について、高等研究院の主催による公開シンポジウムを開催した。シンポジウム

では、有川節夫九州大学総長および板倉周一郎文部科学省技術・学術政策局基盤政策課長より挨拶があり、つづいて、村上敬宜水素材料先端科学研究センター長が基調講演を行った。その後、9 つの SSP 研究プロジェクトの成果報告を行った。

7）2012 年 2 月 28 日にアクロス福岡（福岡市中央区）において、高等研究院の主催による最先端･次世代研究開発支援プログラム研究発表会を開催した。研究発表会では、梶山正司（独）日本学術振興会審議役より挨拶があり、続いて、中野三敏高等研究院特別顧問が「和本リテラシーの回復を願う」と題した特別基調講演を行った。その後、九州大学の林潤一郎先導物質化学研究所教授、山崎晶（しょう）生体防御医学研究所教授、山東信介稲盛フロンティア研究センター教授を含む 7 名が研究成果の発表を行った。

8）特別准教授のプレゼンテーションに対し学術面からの助言や意見交換、博士論文のための実験指導など､特別主幹教授による高等研究院レクチャーを通じて、若手研究者の育成を行った。また、特別主幹教授は、大学院初年次の講義や全学教育の講義を担当し、研究の厳しさ、面白さなどを伝えた。

（3）高等研究院運営会議

1）2010（平成 22）年 3 月 17 日開催の第 1 回目の運営会議では、2009 年度の活動実績の報告、「高等研究院運営会議内規」および「高等研究院特別顧問に関する要項」の制定、2010 年度の活動計画を立案した。また、香月研究院長の任期満了に伴い、次期研究院長に巌佐教授を指名し、推薦した。

2）2010 年 10 月 15 日開催の第 2 回目の運営会議では、2 名の栄誉教授の称号付与者を決定したことおよび 7 名の特別顧問を委嘱したこと、高等研究院に関する中期目標・中期計画、2010 年度の活動計画および実施状況を報告した。テニュアトラック制度の今後のあり方、高等研究院と九州先端科学技術研究所との交流について審議し、交流を実施することを議決した。

3）2011 年 4 月 25 日開催の第 3 回目の運営会議では、2010 年度の活動状況および 2011 年度の実施計画を報告した。高等研究院と最先端・次世代研究開発支援プログラムの若手交流シンポジウムを開催することが審議された。

4）2011 年 10 月 31 日開催の第 4 回目の運営会議では、「九州大学高等研究院規則」の改正、2011 年度の活動計画の実施状況を報告した。テニュアトラック制教員の審査方法等について審議し、高等研究院長および特別主幹教授の審査部局の担当割を議決した。また、高等研究院の今後の活動について審議し、高等研究院主催の最先端・次世代研究開発支援プログラムとの交流シンポジウムにおける特別講演を依頼する特別顧問の選定を議決した。高等研究院長より、根岸英一への栄誉教授の称号付与については、今後の九州大学との関わりを勘案して判断する旨の発言があった。